

2023年12月21日

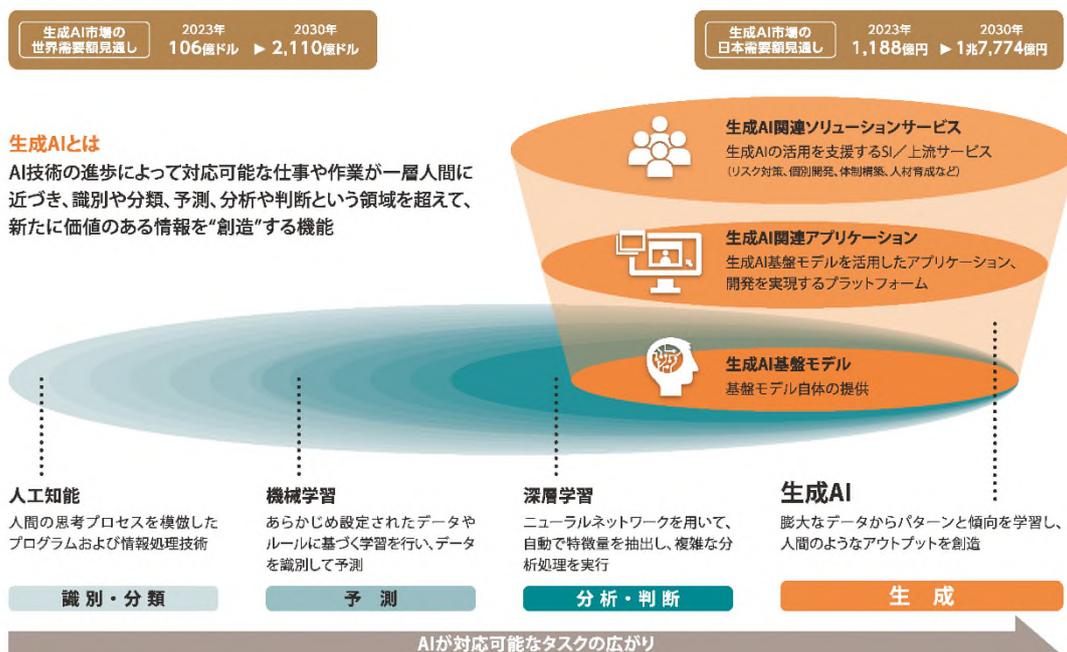
報道資料

一般社団法人電子情報技術産業協会

JEITA、生成 AI 市場の世界需要額見通しを発表

- 生成 AI 市場の世界需要額は年平均 53.3%で成長、2030 年には 2,110 億ドルに達し、2023 年の約 20 倍となる見込み
- 生成 AI の利活用分野はより一層広がる見込みで、特に製造分野の伸長が著しく、年平均 54.6%で成長、2030 年には 507 億ドルへと拡大する見通し
- 生成 AI の利活用の広がりにはハードウェア市場にも影響を及ぼし、世界で+7.8%、日本で+6.0%程度の押し上げ効果が見込まれる

一般社団法人電子情報技術産業協会（JEITA：代表理事/会長 小島 啓二 株式会社日立製作所 代表執行役 執行役社長兼 CEO）は、本日、生成 AI 市場の世界需要額見通しを発表しました。本調査は、主要国政府の政策や海外先進企業の動向など公知情報の分析と、国内先進企業へのヒアリングをもとに推計したものです。



世界の生成 AI 市場の需要は 2023 年の 106 億ドルから、2030 年には 2,110 億ドル、約 20 倍に急速に成長すると見通しました(*1)。日本市場も現在の 15 倍となる 1 兆 7,774 億円に成長する見通しです(*2)。アプリケーションの急速な普及や専門分野向けの生成 AI 活用ニーズの拡大により、徐々に適用/応用範囲を広げ、市場が拡大していくと見込まれています。

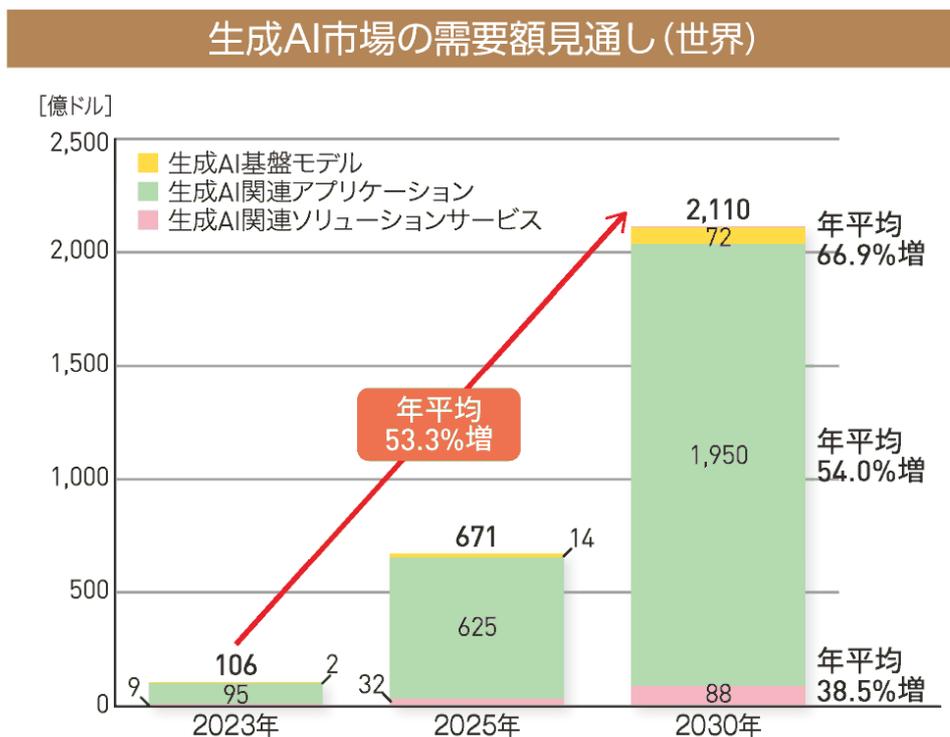
生成 AI の利活用分野は今後、より一層広がっていくことが予測され、特に伸長が著しいと見込まれるのが製造分野です。製造現場における業務支援や製品開発支援など、ユースケースが多岐にわたることから、年平均 54.6% で成長し、2030 年には 507 億ドルへと拡大する見通しとなりました。他にも金融や公共、通信・放送分野などにおいて、作業の効率化や創作活動の拡大などで利活用が広がると見通しています(*3)。

また、生成 AI の発展や利活用の広がりには、ハードウェア市場にも効果を及ぼします。パソコンやスマートフォン、ヘッドマウントディスプレイ、サーバ、ストレージなどハードウェア 11 品目を抽出して需要見通しをまとめた結果、生成 AI により世界で+7.8%、日本では+6.0% 程度の押し上げ効果が期待できる見通しとなりました(*4)。特にインフラは、生成 AI の処理・実行において膨大なデータの保管・管理のためのサーバやストレージが必要となることから、大きな押し上げ効果が見込まれています。

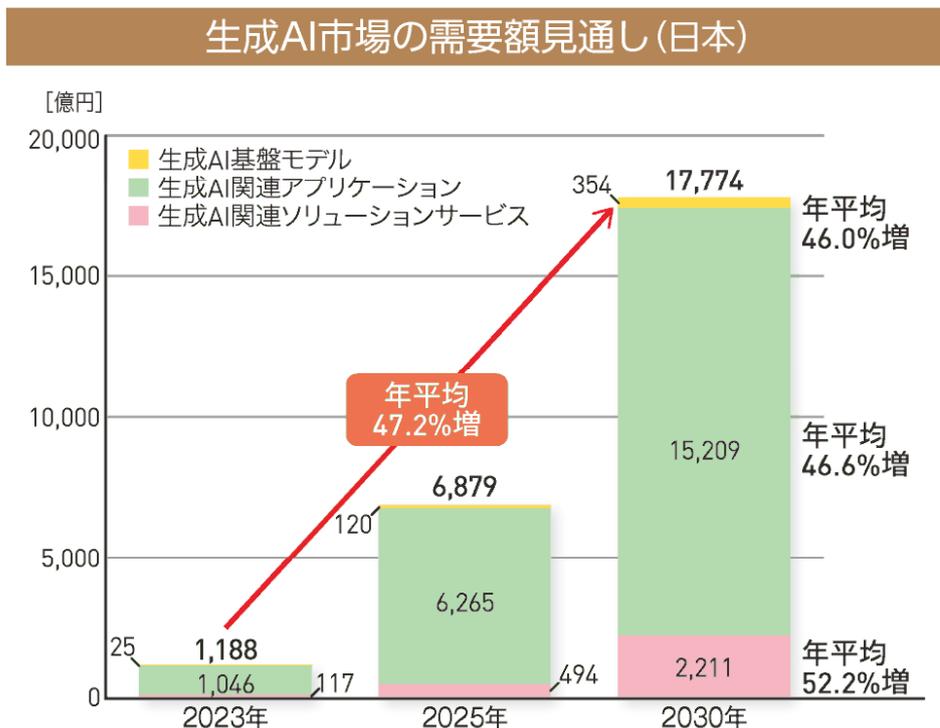
生成 AI 市場の大きな成長が期待される一方、生成 AI の普及に伴い、偽情報の拡散や著作権の問題などの課題も顕在化しつつあります。調和の取れた社会実装のためには環境整備が不可欠であり、国際的な枠組みやルール形成などが必要です。JEITA は世界各国・地域のデジタル業界団体と引き続き連携して、会員企業と共に各種事業を推進してまいります。

今後の取り組みにつきましては、随時発表いたします。

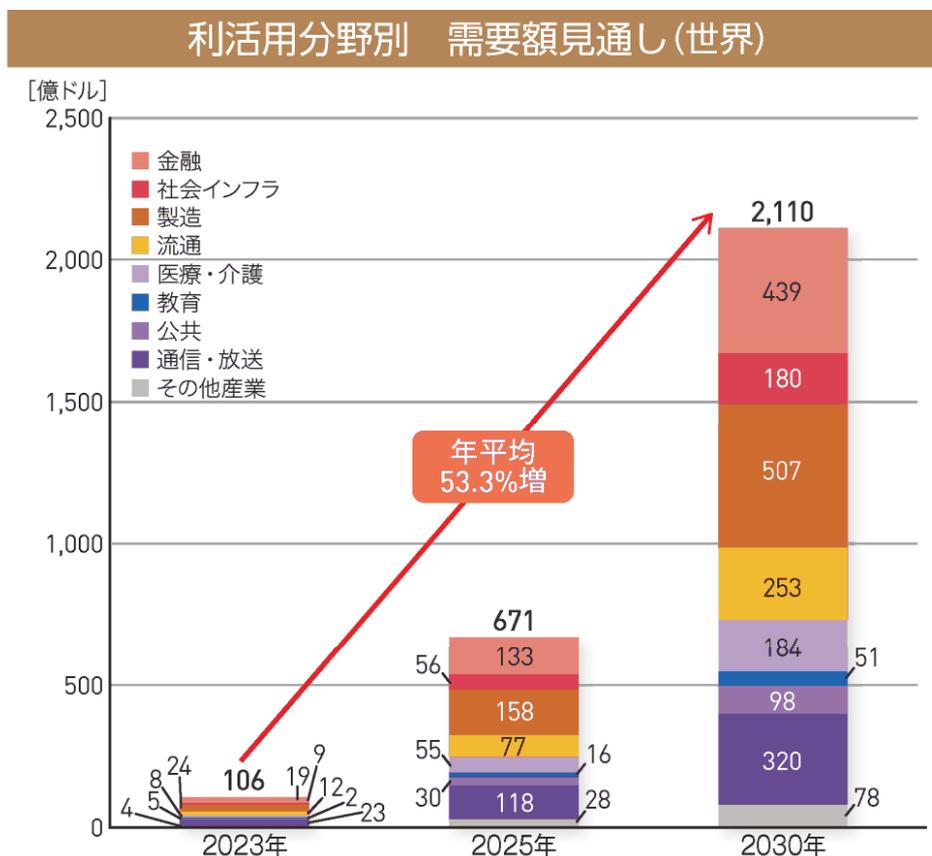
*1 生成 AI 市場の世界需要額見通し



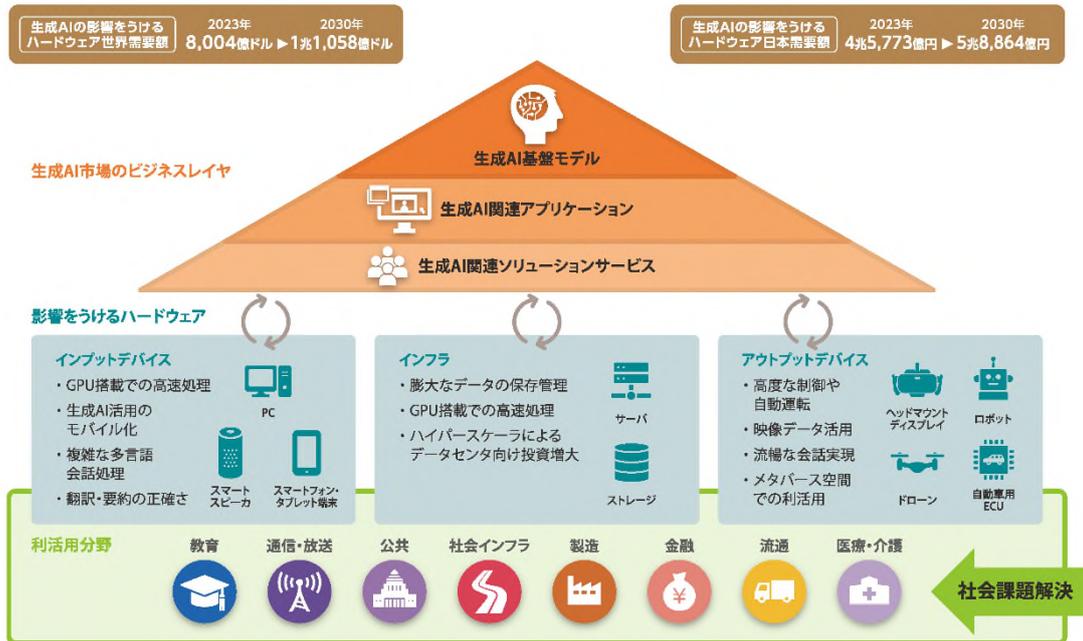
*2 生成 AI 市場の日本需要額見通し



*3 生成 AI 市場の利活用分野別需要額見通し



*4 生成AIの影響をうけるハードウェア需要額見通し



※平均為替レートは2023年：138.6円/ドル、以降は2023年と同一とみなしています。

※本発表はJEITAが発行した『注目分野に関する動向調査2023』（2023年12月発行）にその詳細が報告されています。併せてご覧ください。

『注目分野に関する動向調査2023』

[発行] 2023年12月

[編集] 一般社団法人電子情報技術産業協会（JEITA）

総合政策部会／調査統計委員会／注目分野TF

[価格] 3,300円(税込)